

公表

事業所における自己評価総括表

放課後等デイサービス

○事業所名	こども発達未来スタジオippo 牛津教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名 (世帯13名)	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの発達段階に応じたバリエーション豊かな支援プログラムを提供していること。	・支援プログラムの多様化 感覚統合、運動療育、言語・SST・お出かけ・クッキング活動など、バリエーション豊かな支援を実施する。	・職員研修の強化 最新の療育手法を学ぶ研修を実施し、より質の高い個別支援計画を提供する。
2	・集団活動に適応ができるように、集団療育を大切にしていること。	・集団活動の工夫 子どもの特性に応じて、段階的に集団適応力を育てる。	・集団療育プログラムの見直し 子どもの適応度に応じて、活動の内容や進め方を定期的アップデートする。 ・集団に入るきっかけ作りを職員も介入して行う。
3	・褒める（「いいね！」）で自己肯定感のアップやモチベーションのアップを図っていること。 ・実際に体験して学ぶこと。	・褒める文化の強化 職員間で統一した褒め言葉を使用し、ポジティブなフィードバックを徹底する。 ・人との関わりや気持ちの表現など実際に行いながらどうしたらよりよくなるかを考えていくようにしている。	・保護者向けワークショップの開催 家庭でも褒める習慣を促進し、共通の接し方を身につける機会を提供する。 ・危険な際は、すぐに止められるように近くで様子を見たり、話の仲介をしたりできるように職員間でやり方を共通理解しておく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・研修による専門知識の向上を図ること。（療育の質の向上）	・職員の経験や知識にばらつきがある。 ・最新の療育手法や支援技術の導入が十分ではない。	・福祉専門eラーニングシステムを活用し知識を学ぶ。 ・外部研修や学会への参加を奨励し、最新の支援技術を取り入れる。 ・事例検討会を開催し、職員同士の知見を共有する。
2	・保護者支援の強化を図ること。	・保護者への情報提供が十分ではない。 ・保護者が子どもの成長を実感しやすい支援体制が求められる。	・定期的な保護者向け勉強会や相談会を開催し、家庭での支援方法を共有する。 ・保護者との連携を強化し、支援の進捗をわかりやすく伝えるツールを導入する。 ・個別相談の機会を増やし、より細やかな支援を提供する。
3	・職員の情報共有の徹底を図ること。	・情報の伝達ミスが発生することがある。 ・職員間の連携が十分でない場合がある。	・職員間での1日のミーティングを設定し、日々の支援内容を共有する。 ・新人職員向けのマニュアルを整備し、統一された支援が提供できる体制を構築する。